

Red Cross Kyoto

赤十字 きょうと

2023
2月号



令和4年7月30日開催 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（小学生の部）

救うを託されている。→

人間を救うのは、人間だ。

青少年赤十字を支える

Interview 6

京都府青少年赤十字指導者協議会副会長
京都市立金閣小学校 校長

奥野 利一 さん

私は、生まれたのは京都第二赤十字病院の近くですが、教員になるまで全くかかわりがありませんでした。最初に勤務した学校で、京都府青少年赤十字指導者協議会（指導者協議会）で熱心に青少年赤十字（JRC）活動に取り組んでおられた先輩教員の勧めで、指導者協議会の仲間にいっていました。

奥野先生には、長年にわたって日本赤十字社の青少年赤十字活動にご指導、ご協力をいただき誠にありがとうございます。そもそも奥野先生と赤十字、青少年赤十字の最初のかかわりは



その頃の指導者協議会は、どうでしたか？

今に比べると、いろいろな活動があり、たくさんの研修会や宿泊研修もあり楽しかったです。今はコロナ禍で事業の実施が難しい部分はありますが、JRC活動の中で、赤十字のことも、それ以外のことも先輩からたくさん教えていただきました。自分にとっては、教員としての力量形成に非常に役立った部分がたくさんありました。

当時の学校でのJRC活動はどうな雰囲気でしたか？

小学校の先生になった時に、五年生の国語の教科書に「アンリー・デュナンの伝記」がありました。五年生で、アンリー・デュナンが第一回のノーベル平和賞を受賞したことや赤十字のことを学習したので、子ども

たちに赤十字のことを伝えやすかったです。今の子どもたちは学習していないので、非常にもつたないです。学校で習ったこと、国語の教科書に載っていたことは、子どもたちにとっては大きいことですし、大人になっても覚えてますよね。個人的には、国語の教科書でアンリー・デュナンや赤十字について学べるということが、とっても素敵だと思います。復活してほしいですね。

奥野先生にとってのJRCとは

JRC活動の最も特徴のある教育プログラムの一つである、リーダーシップ・トレーニング・セントラル（トレセン）は、集団生活を通して青少年赤十字の精神とリーダーとしての資質を学ぶ場ですが、お互い知らない子どもたちが、同じところに集まって、二泊の間に、赤十字の勉強をしたり、いろいろな教育プログラムを、みんながひとつになつて学習したり、一緒に作り上げていくという過程で子どもたちが成長していく。手法としては、JRC活動も学校教育も相通ずるところが、非常にたくさんあると思っています。トレセンやJRC活動を通して、子どもたちとの関わり方、接し方を学ぶことができ、自分にとってはとても大切な場です。



小学生にとってJRCとは

小学生は、JRCのことを学び、中学生、高校生になって赤十字のこととを広めたりする。小学校は人材の裾野を広げる役割を果たしていると個人的には思っています。小学生が自ら進んで国際交流事業に参加するのは、年齢的にもしんどい部分があります。

小学校四年生からトレセンに参加し、トレセンに来るのが好きで毎年参加し続けて、今は赤十字ユースに所属し、国際貢献の場で活躍できるようボランティアさんたちがいます。このようなグローバルな人材を育てていただくのは中学校や高校になると思います。小学生は赤十字活動に少しでも参加してもらい、将来的にグローバルな人になるよう裾野の部分を担っていきたいと思っています。小学校の先生方もそのような思いで学校や学級で子どもたちと接しているだければJRC活動に対する理解も深まっていくし、思いも違つてゐるのではないかと思っています。

金閣小学校の皆さん、最近、国際理解・親善を感じられたことがありますか？

金閣小学校に、今年度、海外からの留学生のご子息が転入されてきました。日本語が全く話せない子どもたちです。担任の先生は、不安や戸惑いを感じていたようですが、子ども同士は仲良くなり、すぐに日本語で

京都府青少年赤十字指導者協議会会長
京都府立山城高等学校 校長

細野 吾 さん

青少年赤十字活動は、児童や生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切にし、地域社会や世界のために奉仕することや、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的としており、京都府青少年赤十字指導者協議会の先生方と連携し、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。

こうした青少年赤十字活動を展開できますのも、皆さまのご支援の賜物であり、感謝申し上げます。今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。



青少年赤十字活動は、児童や生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切にし、地域社会や世界のために奉仕することや、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的としており、京都府青少年赤十字指導者協議会の先生方と連携し、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。

指導者協議会以外にも、**京都市教育委員会の教科研究会**として、**京都市青少年赤十字教育研究会(研究会)**を作成おられます。どのような取り組みをされていますか？

子どもたちが、豊かな国際交流を通して仲良くなつていく様を、すぐそばで見られたことは、教員にとっても幸せなことでした。自分が知らない人とお互いわかりあうという経験は、すごく大事です。これからの中を生きていく子どもたちにとっては、そういう視点はより大事になつてきます。

「ユニケーションがとれるようにになりました。子どもたちの間には、国籍、宗教、思想信条の違いなどは関係なくて、目の前に現れたお友達と仲良くなりたいという思いしかありません。その思いは、国際理解・親善の原点です。そんな豊かな国際交流ができた子どもは本当に幸せです。

戦争や紛争、差別や偏見がまだまだ存在する、今の時代を生きる子どもたちにとって、今後も赤十字の精神はますます大切にしなければいけないと思っています。赤十字精神が特別なことを謳つてゐるわけではなく、学校教育とJRC教育の目標は軌を一にしています。無理のない形で、無理のない範囲で、それぞれの先生方の教育実践の中で、人道精神、ボランティア精神を子どもたちに伝えてほしいと思っています。



奥野先生ありがとうございました。JRCも100周年を迎えたが、更なる100年に向かって引き続きご支援ご指導をよろしくお願いいたします。

3年ぶりに、リーダーシップ・トレーニング・センターを実施



7月30日に小学生（41名）、8月2日に高校生（42名）が、青少年赤十字について、防災教育、応急手当などの学習をとおして、「リーダーとは？」と一人一人が考え、体験する研修を実施しました。

3年ぶりに、災害救護訓練を実施



6月18日に、奈良県において、近畿6府県の支部、赤十字病院、血液センターの職員及び看護学生が参加し、第4ブロック支部合同災害救護訓練を実施しました。また、11月12日には、支部、赤十字病院及び血液センター職員が参加し、京都府支部管内合同災害救護訓練を実施しました。

防災倉庫を設置



京丹波町防災倉庫の設置に伴い、日本赤十字社京都府支部 西脇支部長、京丹波町 畠中町長によって、災害対応に向けた連携及び協力に関する協定書を締結しました。そして、12月5日に京丹波町役場で運用開始式を執り行いました。

今回の整備で、京都府内に10カ所目の防災倉庫を設置することができました。日本赤十字社は、災害発生時に、被災された方々へ速やかに救援物資などを届けできるように、皆様からのご支援により日頃から防災倉庫の整備や救援物資等の備蓄をしております。

ご支援・ご協力のお願い

赤十字を支えるのは、あなたの思い。

赤十字では、皆様からお寄せいただいた資金を活用し、「いのちと健康を守る」ための様々な活動を展開しています。引き続き、皆様からの温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

●地域でのご寄付

赤十字奉仕団や町内会・自治会などを通じてご寄付いただいている。また、年間を通じて府内各市区町村の日赤窓口でもご寄付いただけます。

●口座振替によるご寄付

ご登録いただいた金融機関の口座から希望月に自動引き落としてご寄付いただく方法です。日本赤十字社ホームページの「寄付する」からお申し込みください。

●寄付金付自動販売機の設置によるご寄付

自動販売機の売上げの一部をご寄付いただく方法です。設置に要する費用は全て販売会社が負担します。新規設置だけでなく、更新設置も可能です。詳細は当支部(上記と同じ)までお問い合わせください。

●遺贈・相続財産等のご寄付

京都府支部では、遺贈(遺言によるご寄付)、相続財産等のご寄付を承っています。詳細は当支部(075-541-9326)までお問い合わせください。

●クレジットカードによるご寄付

ご登録いただいたクレジットカードから、寄付回数を選択してご寄付いただく方法です。日本赤十字社ホームページの「寄付する」からお申し込みください。



活動資金へのご協力ありがとうございました

(地区順・五十音順)

日本赤十字社京都府支部の活動は、皆様のご支援により支えられています。

令和3年10月から令和4年12月の間に、10万円以上のご寄付をいただき、掲載についてご了承いただいた会員の方々をご紹介いたします。

●北区

川上 達也 様
高須 雅史 様

●上京区

立原 貴代 様
渡邊 隆夫 様

●左京区

一井 克之 様
井元会計事務所 様

●中京区

久野 貞子 様
出竿 賢治 様
株式会社美也古商会 様

●南区

E-CARS 様
岡本 功 様

●右京区

京都ケアサービス株式会社 様
株式会社大同商会 様

●伏見区

中西電建株式会社 様
株式会社淨美社 様

●下京区

森本 哲郎 様

●山科区

エンドレス不動産販売株式会社 様
紀田 貢 様

●西京区

エスティックジャパン株式会社 様
小西 和代 様

●伏見区

石黒メディカルシステム株式会社 様
株式会社ヤマモトホールディングス 様

●下京区

北後 豊子 様
株式会社ロマンス小杉 様

●宇治市

天藤製薬株式会社 様
科研電機株式会社 様

●福知山市

福知山BGM福祉サービス 様
山下 裕 様

●南区

河嶋 義孝 様
株式会社大同商会 様

●右京区

藤原 幸和 様
丸岡組 様

●京田辺市

中島 隆夫 様

●南丹市

有限会社アユミ・ロジスティクス 様
竹井 博 様

●久御山町

五洋精工株式会社 様

●宇治田原町

株式会社木長園 様

●精華町

株式会社アイエス 様
株式会社井上製作所 様

●千葉県

石田 彰成 様

●滋賀県

下條 永展 様

●兵庫県

大江 省吾 様

令和3年度 日本赤十字社京都府支部 岁入歳出決算

決算額(千円)	内 訳
災害 救護 事業 費	21,305 災害救護に係る経費、救護資機材等の整備費、救護看護師の養成経費など
社 会 活 動 費	49,546 救急法、水上安全法、児童安全法等の講習開催経費、赤十字奉仕団や青少年赤十字の育成費など
国 際 活 動 費	1,050 國際開発協力事業に係る経費
指 定 事 業 地 方 振 興 費	4,550 災害救援設備の整備に係る経費など
地 区 分 区 交 付 金	43,012 地区间区の事務費及び事業費
社 業 振 興 費	38,779 会費の募集、広報活動に係る経費など
基盤整備交付金・補助金支出	1,150,116 医療施設や血液センターの基盤整備のための交付金
積 立 金 支 出	35,745 災害等資金積立金など
総 務 管 理 費	54,229 光熱費、事務費など
資 産 取 得 及 び 資 産 管 理 費	59,359 厅舎の維持管理費など
本 社 送 納 金 支 出	63,020 本社の国内外の活動に係る経費
歳 出 合 計	1,520,711